

令和3年度

河川塾

一次代の河川施策を考え、河川技術を能動的に展開させる力を養う

公益財団法人河川財団では、河川総合研究所所長 藤田光一による標記を開講します。専用テキスト「現代河川工学—基本と展開～自然と折り合う国土管理を支える知の体系～」を用いた体系的講義を計13回行い（うち1回は河川現場での指導を予定）、与えられた課題を解くことを越えて、何をすべきかを自ら考え、解き方を開拓する力を塾生が伸ばしていく基盤の獲得を目指します。このために、テキストを用いた講義・質疑に加えて、特に掘り下げたいと考えている課題を各塾生から提出いただき、それに関係する題材も活用しながらディスカッションを積み上げて、課題に取り組む方向性を見出す演習*を行います。

*演習のやり方については、提出された課題を踏まえ、塾生の皆さんと相談しながら決めていきます。

開催内容（予定）

講義原則 月 曜日開催（年間活動計画参照）
17:00～19:00（2時間）

場所 NATULUCK日本橋

東京都中央区日本橋小舟町4-1 伊場仙ビル7F

期間 7月5日（月）～11月29日（月）まで（予定）

募集期限

6/28
（月）

必着



アクセス
NATULUCK日本橋

応募資格 上記の趣旨に適い、意欲のある技術者等 ※客観的証明は不要です。

定員 15名 ※定員を超えた場合は、参加いただけないケースが出てくることをご容赦願います。

参加費 7万円 ※専用テキスト、題材資料は含まれます。現地調査の旅費は、別途必要となります。

その他 各自「水理公式集 2018年版」をご用意ください。

申込方法

河川財団HPの専用フォーム（右図QRコード）より申込み頂くか、裏面の「申込み必要事項」と①技術者としての経験・②参加理由・③掘り下げたいテーマ・④掘り下げたい課題をご記入の上 E-mail でお申込みください。



申込専用フォーム

新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルスの感染状況をふまえ、厚生労働省等の政府機関、地方公共団体等から情報を入手すると共に、以下のような対策を講じて参ります。皆さま方におかれましても、対策に努めていただきますよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。

- ① 咳エチケット・マスク着用をお願い
- ② 入室時のアルコール消毒・検温
- ③ 定期的な室内の換気
- ④ ソーシャルディスタンスが十分に確保できる会場での開催



公益財団法人河川財団 河川総合研究所 所長 藤田 光一

経歴

1981年 東京工業大学理工学部土木工学科卒
1983年 東京工業大学院修士課程修了
同年 建設省入省（土木研究所 河川部河川研究室 研究員）
1997年 建設省 土木研究所 河川部河川研究室 室長
2000年 建設省 中部地方建設局 三重工事事務所 所長
2003年～ 国土交通省 国土技術政策総合研究所
河川環境研究室室長・環境研究官・流域管理研究官・
河川研究部部長・研究総務官・所長などを経て
現在 公益財団法人河川財団 河川総合研究所 所長

年間活動計画（予定）

月	日	開催回	内容（予定）	月	日	開催回	内容（予定）
7	5	第1回	講義	9	13	第7回	講義
	19	第2回	講義		27	第8回	講義
8	2	第3回	講義	10	11	第9回	講義
	16	第4回	講義		25	第10回	講義
	30	第5回	講義		1	第11回	講義
9	6	第6回	現地調査	11	15	第12回	講義
	7				29	第13回	講義

専用テキスト「現代河川工学—基本と展開」の目次は裏面をご覧ください。



令和3年度河川塾は、土木学会CPD認定プログラムです。

※土木学会以外に、CPD単位を登録する際は、受講したことがプログラムとして認められるかどうかは、各団体のルールに従ってください。

申込先

E-mail kasen-entry@kasen.or.jp

河川塾事務局担当 山本・軍司 TEL 03-5847-8304



公益財団法人
河川財団

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町11-9 住友生命日本橋小伝馬町ビル 2階

TEL 03-5847-8304

FAX 03-5847-8310



第1章 河川工学原論

- 1.1 「河川」の捉え方
- 1.2 河川と人間がせめぎ合う中で折り合いをどうつけるか？という構図
- 1.3 河川制御・管理の目標を追求するための河川施策形成の基本構造と河川工学
- 1.4 河川施策形成を支える学術の俯瞰的整理
- 1.5 河川工学と河川技術の発展が創発的となるための要諦
- 1.6 河川制御・管理の目標を起点にした河川工学の体系
- 1.7 河川をシステムで捉えることの重要性－河川工学を拡充していくための着眼点その1－
- 1.8 実現象からの継続的な学びの重要性－河川工学を拡充していくための着眼点その2－

第2章 堤防破壊現象とそのプロセス

- 2.1 越水破壊プロセス
- 2.2 洗掘および侵食による堤防破壊プロセス
- 2.3 浸透による堤防破壊プロセス

第3章 河道からの氾濫の激しさにかかわるプロセス

- 3.1 破堤氾濫の水理特性に内在する危害性
- 3.2 掘り込み河道からの氾濫で危害性が高くなる場合
- 3.3 破堤氾濫の激しさに影響を与える要因とそのメカニズム
- 3.4 氾濫の危害性を緩和するというアプローチとそれを支える技術フレームの展望

第4章 河道内洪水流の水理プロセス

- 4.1 インプットとアウトプット
- 4.2 原理, 仕組み
- 4.3 主たる時間スケール
- 4.4 定量記述法, モデル
- 4.5 現象・プロセスを規定する条件
- 4.6 現象・プロセスの特性, 特徴
- 4.7 実際問題を扱う上でのポイント（含；求められる精度, 信頼性）
- 4.8 現場条件把握の方法とその限界, 課題
- 4.9 評価に至る道筋全体における位置づけ, 最終的に得べき評価との関係

第5章 土砂流送を軸にした諸プロセス

- 5.1 インプットとアウトプット
- 5.2 原理, 仕組み
- 5.3 主たる時間スケール
- 5.4 定量記述法, モデル
- 5.5 現象・プロセスを規定する条件
- 5.6 現象・プロセスの特性, 特徴
- 5.7 実際問題を扱う上でのポイント（含；求められる精度, 信頼性）
- 5.8 現場条件把握の方法とその限界, 課題
- 5.9 評価に至る道筋全体における位置づけ, 最終的に得べき評価との関係

第6章 土砂動態と河道形成の巨視的捉え方

- 6.1 河道のセグメント区分とセグメントの類型化
- 6.2 河床材料の見方
- 6.3 沖積河川に供給される土砂の量と粒径
- 6.4 通過型および混合型の土砂輸送形態
- 6.5 粒径集団のマクロな挙動の把握を通じた沖積河道形成の捉え方
- 6.6 “演習問題”を通じた捉え方の理解の深化

第7章 河道内植生変化プロセスが主要な役割を持つ河道形成システム

- 7.1 本章の位置づけ
- 7.2 セグメント2-1における低水路川幅拡大後の川幅縮小
- 7.3 セグメント1における安定植生域の形成
- 7.4 システム比較からの論考について

第8章 河川の物理環境形成システムの捉え方

- 8.1 概説
- 8.2 システム駆動の基盤条件の代表例

おわりに

令和3年度河川塾 申込み必要事項		①技術者としての経験
ふりがな 氏名		
会社名		
部署		
職位		②参加理由
		③掘り下げたいテーマ
		④掘り下げたい課題
連絡先	TEL	
	E-mail	

例) 河道管理、氾濫・被災、堤防点検の変状などの評価技術、河川環境など

※ご記入いただいた個人情報は、河川塾の連絡以外に使用いたしません。新型コロナウイルス感染症対策として、必要に応じて保健所等の公的機関へ提供する場合があります。